

J-DEPPモデル

上記の事業フローを踏まえ、8つのステップごとに自治体が実施すべき内容を整理しています。事業の全体像を確認しながら、計画、実施、評価、改善の各段階で必要な取組を具体的に検討することができます。

J-DEPP モデル			
PDCA	Step	内容	詳細
Plan	1. 事業計画	事業目的を設定し、具体的なKPI（評価指標）を策定	事業目的を明確にし、主要KPI（評価指標）として、検診受検率、受診率などを設定します。
	2. 体制準備	関係機関と連携し、実施体制を構築	受診先の受け皿となる地域医師会、認知症疾患医療センター、および大学病院等へ事業の趣旨を説明し、受診体制を整えます。次に、外部委託業者（スクリーニング用認知機能検査提供、会場運営補助、ダイレクトメール発送・印刷等）やボランティアなどの地域資源を選定し、実施体制を整えます。
Do	3. 市民啓発	多様な媒体を活用して啓発活動を実施	啓発活動においては、自治体のホームページや広報誌、回覧板などへの記事・動画の掲載を行い認知症の基礎知識や相談窓口、介護保険制度の情報を発信します。情報提供の場として、講演会や地域イベント等も活用します。情報提供の際には、認知症の発症・進行リスクの早期発見・早期対応の重要性や認知症の予防や治療などについて、丁寧に周知します。
	4. リクルート	リクルートを実施	「個別化した手法」を用いたリクルートは受検率が高いことがわかっています。個別化した手法には「個別郵送」「会場イベントでの直接声かけ」「地域包括・介護予防教室での案内」の方法があります。補助的ツールとして、広報誌・ポスター・ホームページ・新聞折込・リスティング広告なども活用します。
	5. 検査実施	地域の特性に合わせて実施形式と検査ツールを選択し検査を実施	検査の実施形式は、地域の特性に合わせて選択します。会場型は対面での丁寧な説明や操作支援などの即時フォローを行うことができるため、推奨されています。各自のスマートフォン等の電子的デバイスで検査をオンライン実施する非会場型は操作性による途中離脱支援として、事前練習や電話等のサポート体制を整える必要があります。
	6. 結果通知・受診推奨	結果通知および受診推奨	検査後は結果送付にとどまらず、電話や訪問、面談などによる「人を介した」支援を行います。具体的行動（受診予約方法・相談先）と地域の受診先を明記し、対象者の不安を軽減しつつ受診を促します。
	7. 継続支援	受診行動のリマインドと診断結果に応じたフォロー	必要に応じて関連部署と連携し、継続的な支援を行います。医療機関受診のリマインドを行い、受診後の診断結果（認知症、MCI、正常）に応じて適切な支援を実施します。結果が正常範囲であった場合でも、定期的なスクリーニング検査の案内や継続的な啓発・情報提供を行います。
Check & Action	8. 事業評価	認知症の早期発見の取組の事業評価を実施し主要KPIを確認	事業全体を振り返り、当初設定した主要KPI（受検率、受診率等）の実績を確認します。この事業評価を次年度以降の計画にフィードバックしていきます。目標が達成できなかった場合は、Planを見直します。

取組チェックリスト

まずはチェックリストで現在の状況を把握してみましょう。当てはまらない項目は参照ページを確認のうえ、チェックが一つでも増えるよう、一歩ずつ進めてみてください。

取組チェックリスト		参照ページ
☐	認知症に関する健診・検診の実施にあたり、事業目的および対象者を明確に設定していますか？	枠組みの整理 P34-35 指標の例 P35-36
☐	KPI（評価指標）を設定していますか？	
☐	既存事業の位置づけを明確化し、本事業の枠組みを整理できていますか？	
☐	地域医師会や認知症疾患医療センターへ事業の趣旨を説明し、受診体制を整えていますか？	地域資源との 協働と連携 P37
☐	かかりつけ医から専門医への紹介フローは確立されていますか？	
☐	庁内連携部署（国保、介護保険、高齢福祉）との役割分担は明確ですか？	
☐	事業運営に必要な外部委託業者・既存事業や地域資源（ボランティア等）の選定・契約準備はできていますか？	
☐	認知症に関する健診・検診や早期対応の重要性および治療法について啓発を行っていますか？	継続的な事業実施を 目指して P38-39 (参考:P7、P66-68)
☐	個別化した手法でリクルートを実施していますか？	対象者の リストアップ P39-40
☐	既存の情報資源（基本チェックリストや特定健診・保健指導の結果等）を活用し、認知症発症/進行リスクの高い人へ個別にアプローチできていますか？	
☐	地域の特性に合わせて認知症に関する健診・検診の実施形式を選択していますか？	検査の形式 P40-41 (参考:各地域の取組事例P52-61)
☐	対象者が来場しやすいよう、会場へのアクセスや移動手段に配慮していますか？	
☐	科学的根拠、ユーザビリティ、コストを踏まえた検査ツールの選択ができていますか？	
☐	対面検査（MMSE-J等）の場合、実施者の事前訓練を十分に実施していますか？	検査の形式と 使用ツール P40-45
☐	おおよそ1ヵ月以内に結果の通知や受診の案内を行っていますか？	
☐	結果通知・受診推奨では「人を介した」直接的な支援を組み合わせていますか？	不安のない 推奨のために P45-49
☐	結果通知・受診推奨では具体的な行動指示を含めていますか？	
☐	結果通知・受診推奨の方法や文面は、プライバシーに配慮しつつ、対象者の不安に寄り添う内容になっていますか？	
☐	医療機関受診のリマインドを実施していますか？	モニタリングと フォローアップ P49-50
☐	医療機関から受診結果（診断名等）のフィードバックを受け取っていますか？	
☐	受診後の診断結果（認知症、MCI、正常）に応じて適切な支援をしていますか？	
☐	設定した主要KPIの実績を確認していますか？	3段階の 評価方法と活用 P51